

授業科目(ナンバリング)	相談援助実習指導Ⅰ (DB205)			担当教員	大島 啓・韓 榮芝 野田 健・ヴィラーク ヴィクトル 裊 孝承・種橋征子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>「相談援助実習指導Ⅰ」では、ディプロマポリシーに照らし、カリキュラムに沿って専門的知識・技能を習得し、それらを国際社会、及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができることを目的とし、次の5点を授業のねらいに据えている。</p> <p>①相談援助実習の意義について理解する、②対象者の抱える生活課題や思いを理解する、③相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、④社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、⑤具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>これらを通して、福祉的な課題について情報収集し、分析するための専門的能力を身に付け、次年度の相談援助実習に備えてもらいたい。</p> <p>また、この授業は2年次前期の「相談援助実習の理解」に引き続き、3年次で開講される「相談援助実習指導ⅡA・B」の前段をなすものであり、実習事前学習の“入門”にあたる。従って、この授業の履修には、前期の「相談援助実習の理解」を履修済みであることが前提である。</p>							①、⑤、⑥、⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・相談援助実習先の施設・機関の基本的概要を説明できる。				・授業内外レポート ・プレゼンテーション	30% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習で学ぶ動機、目的、ねらいを明確に説明することができる。 ・実習日誌を事実と考察を区別して書くことができる。 ・実習日誌に記載することからの要点を絞ることができる。 				・授業内外レポート ・プレゼンテーション	10% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、考えたことを分かりやすく伝える文章を書くことができる。 ・実習生として必要とされる熱心な取り組み姿勢を身につけている。 ・実習生として必要とされる礼儀作法を身につけている。 				・授業内外レポート ・参加姿勢	10% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	・対象者の抱える生活課題や思いを理解し、対象者を一人の人として尊重できる				・授業内外レポート・プレゼンテーション	10% 10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
「授業内外レポート」(60%)は、授業内あるいは授業外に随時課した課題を評価する。「プレゼンテーション」(30%)は、課題の発表報告とその内容を評価する。「参加姿勢」(10%)は、授業への取り組み姿勢や態度を評価する。レポート、プレゼンテーションのフィードバックは授業内にて行う。							
授業の概要							
<p>授業開始に先立って、社会福祉の各領域の基本的な理解を得るために「見学実習」を行う。その上で個別面談を通して実習先を決定する(実習配属)。プログラムの性質上、「見学実習」への参加が必須である。通常の授業は各クラスで行われ、実習で何を学び身につけるのかを明確にした上で、実習日誌の書き方・実習生としての礼儀作法・電話の応対などを実践的に身につける。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p> <p>見学実習(9月中旬～下旬実施予定)では、20人以内のグループで、以下の分野別に各実習先施設を一日かけて見学し、実習先分野への理解を深め、「見学実習レポート」としてまとめる。その上で、9月末には「実習先分野希望票」を「見学実習レポート」とともに提出する。実習先分野は、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉(社協)、医療福祉となっている。</p>							

教科書・参考書

教科書・指定図書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、長谷川匡俊・上野谷加代子他編（2014）『社会福祉士相談援助実習（第2版）』中央法規。（3年次開講科目である「相談援助実習指導ⅡA・B」と共通）

授業外における学修及び学生に期待すること

対人援助専門職の教育体系には、必ず「実習」が組み込まれている。それは、学校で学ぶことと並行して「実地に学ぶ」、「実践の場で試行し、学ぶ」ということである。現場に入ってみないと分からないことを、実習という場を通して体験し、学習させてもらうのである。この授業はそのための事前学習の場である。利用者に寄り添うことが求められる相談援助実習に行くには、この事前学習をしっかりと受け、マスターすることが不可欠であり、この授業の単位を取得できない学生は、「相談援助実習指導ⅡA・B」の履修はもちろんのこと、実習そのものに行くことができない。なお、授業の一環として、11月下旬に実施予定の「実習報告会」に参加し、発表者の実習体験報告を聴き学んでもらう予定である。心して授業に出席するとともに、真剣に受講してもらいたい。また、さまざまな福祉現場で積極的にボランティアを経験しておいて欲しい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	見学実習 (9月中旬～下旬実施予定)	実習各分野(高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉、医療福祉)の利用者・施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関し、基本的な理解をする	見学先機関について予め調べる。見学実習で学んだことをレポートにまとめる。
2	オリエンテーション 見学実習の振り返り	全体会で後期の授業展開及び相談援助実習と実習指導における個別指導、集団指導の意義についてオリエンテーションを行い、各クラスで見学実習を振り返る。	予習：見学実習で学んだことを発表できるよう完成する。
3～5	課題学修①～③	実習配属のための全体会を実施する。実習記録の書き方を学ぶ。課題学修を行いつつ、個別面談を行い実習先を決定する。	予習：実習分野の希望・交通手段等を整理しておく。
6	実習への心構え	実習に行くことを希望する理由、実習に関する不安を他学生と共有し、実習に行く目的、目標を明らかにする。	予習：なぜ実習に行き、何を学びたいのか考える。
7	実習での学び方	実習時に対象者や職員との関わり、活動からの学びを振り返り、言語化するための経験学習について理解する。	予習：今までの経験を通して学んだこと、上達したことを振り返る。
8	援助の視点と自己覚知 (個人プロフィール表の記入)	対象者を一人の人としてとらえる視点、自分自身のことについて理解を深める。	予習：自分の性格や傾向について考えてくる。
9	記録の書き方	予習として事前に記入した、一日の生活を振り返った日記の書き方について、他学生とディスカッションを行う	予習：事前に日記を書いてくる。
10	実習報告会への参加	実習報告会に参加し、実習においてどのような活動をし、どのように何を学ぶのか、考える。	復習：実習報告会参加から考えたことをレポートにまとめる。
11	実習報告会の振り返り	実習報告会参加レポートをもとに、グループで振り返る。実習で学びたいこと、そのために準備すべきことを整理する。	復習：実習に向けての動機、実習のねらい、目的を説明できるようにする。
12	実習における礼儀作法(1)	実習が行われる施設・機関は実社会であり、大学とは異なる。社会人の卵としての実習生に求められる礼儀作法(電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	復習：授業で学んだ礼儀作法を日ごろから意識して実践する。
13	実習における礼儀作法(2)	実習が行われる施設・機関は実社会であり、大学とは異なる。社会人の卵としての実習生に求められる礼儀作法(電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	復習：授業で学んだ礼儀作法を日ごろから意識して実践する。
14	実習分野・機関への理解	実習配属施設・機関の法的な位置づけ、サービス内容を調べ、実習先の分野に関する社会問題について考える	予習：実習先分野の制度・サービス・社会問題についてレポートを書いてくる。
15	まとめ	全体を振り返り、実習への動機、目的、ねらいを明確にし、次年度の実習に向けた準備を確認する。	予習：これまでの講義の振り返り、実習への動機、目的課題について整理する。